

実践事例⑧ 八王子市立貳分方小学校

1 取組・活動名

「パラリンピックを知ろう！体験しよう！伝えよう！」

2 取組・活動のねらい

- 障害者理解教育を推進し、本校の教育目標「役に立つ喜びを知る子」を育成する。
- 障害のある人や多様な立場の人がいる集団に、積極的に関わろうとする児童を育成する。
- 障害のある人が活躍するスポーツに触れさせ、東京オリンピック・パラリンピックへの学びの連続性をもたせる。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・12時間」

4 実施上の工夫

- ・ 「運動の楽しさを知る」「オリンピック・パラリンピックへの関心を高める」「障害者と障害者スポーツを知る」ために、積極的に外部講師を活用した。
- ・ 障害者スポーツの特性を深く理解するために、障害のある人から話を聞いたり、実際に競技を行ったりする体験的な学習を行った。
- ・ 学習に対する興味・関心や意欲を持続させるために、特別支援学校との親善試合を設定した。
- ・ オリンピック・パラリンピック学習ノートに記録した学習内容を生かし、保護者や地域への発表を行った。

5 本取組・活動の内容



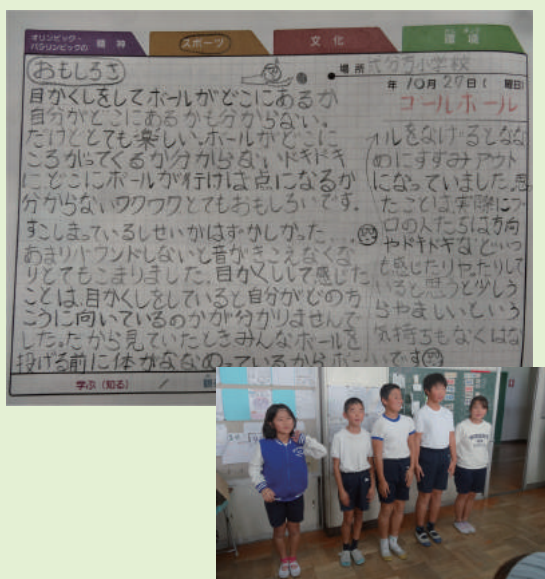
「ゴールボール体験」

- ・ ゴールボール体験では、目隠しをして準備運動をすることから始めた。いつもあたりまえに行っている準備運動も、手本の人がどんな動きをしているのかがわからず、他の児童が苦労しながら言葉で、運動の仕方を説明していた。
- ・ また、東京都立八王子盲学校と親善試合も行った。



「車椅子バスケットボール体験」

- ・ 車椅子バスケットボールでは、車いすの形が、病院などでよく見かけるものとは、まったく違うことに、驚いていた。
- ・ 実際に車椅子バスケットボールの試合をしてみると、運動が得意な児童もそうでない児童も、一緒になって、楽しそうに取り組む姿が見られた。



「オリンピック・パラリンピックノートの活用等」

- ・ 体験したり調べたりしたオリンピック・パラリンピック競技の感想や魅力などを、オリンピック・パラリンピック学習ノートに詳しく記録した。
- ・ また、ノートにまとめたことなどを、多くの人に知ってもらいたいという思いをもって、発表会にのぞむことができた。

6 成果

- ・ 障害者スポーツを実際に体験することで、障害への理解が進むと同時に、困難があるからこそ得ることのできる達成感を学ぶことができた。
- ・ 体験的な学習を積むことにより、オリンピックやパラリンピックをより身近なものとして考えられるようになり、そのことが学習意欲の向上にもつながった。また、ゴールボールクラブの創設に、児童が自主的に関わった。
- ・ 誰もがもっている苦手意識を、お互いに理解し合い、自分にできることを通して、役に立とうとする意識が向上した。
- ・ オリンピアンとの交流の中で、本物の金メダルに触れさせてもらう等の体験から、より大きな感動を味わうことができた。
- ・ オリンピアンの話を聞いて、選手の並大抵ではない努力を知ることができ、様々な競技の選手を応援しようという気持ちをもつようになった。
- ・ 話を聞いたり、調べたり、体験したりしたことを発表する機会を設定することで、学習したことを発信する力が向上した。